

<幸せをつくる教育>

私は、幼い頃に自然豊かな田舎で育ちました。学校で習った植物のこと、図鑑で見た昆虫のこと、テレビで見た気象現象のこと、興味を持ったことについて実際の姿や仕組みを知りたくて、毎日、朝から晩まで、草原や田んぼや畑、森へ出かけては本物の自然と触れ合っていました。そして、知りたかったことが、ようやく理解出来た時、私はとても大きな喜びを感じていたのです。そして、さらに知ることの楽しさを求めて、もっと図鑑を調べたり、もっと生き物を観察したり、実際に飼育してみたりを繰り返すことを通して、「あっ！そうなんだー！」という大きな幸せを感じる毎日を過ごしていました。

現在、私たちは、文明の発達によって、高度に分業化され、複雑で大きな社会に暮らしています。人々は、社会のほんの一部を労働によって担うだけで、その対価として得たお金で、巨大な社会から、生きるために必要なものやサービスを恩恵として手に入れ、毎日を平和で安心して暮らすことが出来ています。お金によって、ものやサービスが、当たり前に入られる様になった現代社会では、それらが、どの様に作られているのか、あるいは、どの様に届けられているのかといった「ものごとの仕組み」を理解することへの興味や関心がどんどん失われている様に思われます。今後、文明の発達は、益々加速し、AIなどが広く普及すると予想される未来では、自ら考えることや、理解することの必要性が、今まで以上に失われていくのかも知れません。

私たちは、いつも見ている、いつも食べている、いつも触れている、そんな身近なものを対象にした、「ものごとの仕組み」を理解する体験教育活動を行なっています。私たちは、当たり前になりに身近にあって、何となく、こんなものだろうと自分勝手に理解している物事を、体験を通してちゃんと理解できた時、人は「あっ！そうなんだぁー！」と云う大きな喜びを感じることを知っています。そして、そうした喜びを体験した人は、また再び、その喜びを得ようと、興味のある様々な物事に対して、さらに深く探究していく様になるのです。この「幸せをつくる教育」の実践によって、身の回りにあるすべてのものに、好奇心や興味を持って、自ら学び、自ら考え、自分らしく、夢に挑戦できる人材を、数多く輩出することができれば、きっと日本の未来はもっともっと明るいものになるのではないのでしょうか。

南相馬市は震災によって、大変困難な時期がありました。しかし、私たちは、そこから大切なものを学びました。南相馬サイエンスラボの活動は、私をこどもの頃の幸せな時代にまた再び導いてくれました。私たちはこれからもずっと「幸せをつくる教育」を続けていくことで、かつての震災の被災地から、日本の将来をより明るくするための発信を続けていきたいと考えているのです。